１．心のクリニック活動報告
（2011年９月～2012年８月）

１）心のクリニックの運営体制

⑴　スタッフ構成

心のクリニックの2012年８月時点のスタッフ構成は、表１に示したように相談員18（本学心理学科専任教員９名、非常勤相談員９名）、研修相談員５名、院生相談員28名（修士課程２年生13名、修士課程１年生15名）、事務職員２名であり、総勢53名で心のクリニックの運営に当たっている（2011年度のスタッフは、３.スタッフ名簿に示している）。

表１　スタッフ構成

相　談　員		研修相談員	院生相談員		事務職員	計
本学教員	非 常 勤		Ｍ　１	Ｍ　２		
9	9	5	13	15	2	53

※2012年８月時点

⑵　施設について

心のクリニックは、追手門学院大学地域支援心理研究センターの１、２階にあり、（旧）の様な施設において相談活動を行っていた。2012年８月にセンターの改修工事を行った。

新しい配置は（新）の通りである。

（旧）１階：事務室および受付
　　プレイルーム　　２室
（旧）２階：相　談　室　　３室
　　集団カウンセリング室　　１室
　　心理検査室　　１室
　　資　料　室　　１室
　　スタッフルーム　　１室
（旧）３階：会　議　室　　１室
　　多 目 的 室　　１室
（新）１階：事務室および受付
　　プレイルーム　　２室
（新）２階：相　談　室　　３室
　　集団カウンセリング室　　１室
　　心理検査室　　１室
　　資　料　室　　１室
　　待　合　室　　１室
（新）３階：相　談　室　　２室
　　スタッフルーム　　１室

ミーティングルーム	１室
会　議　室	１室
多目的室	１室

⑶　心のクリニック相談員会議

心のクリニック相談員会議は2006年４月から原則として月１回の開催となり、2011年９月から2012年８月の期間に11回の会議を行った。相談員会議は、本学教員である相談員に加え事務職員（記録者）１名が参加し、主にクリニックの運営や大学院生の臨床実習の進め方等について協議を重ねている。

⑷　インテーク・カンファレンス

インテーク・カンファレンスは、2007年度までは月曜日または金曜日の12：45～13：5の時間に参加可能なものが参集し随時開催していた。しかし、インテーク・カンファレンスの教育的意義を考えれば、大学院生（特にケース担当経験の乏しいＭ１）は必修とした方が良いとの意見が多く、2008年４月からは、月曜日５時間目（16：40～18：10）の臨床心理基礎実習の中で行われるようになった。参加教員は、臨床心理基礎実習担当教員は勿論であるが、心のクリニック相談室長およびその他心理学科専任教員もオブザーバーとして参加しているので、前年度までより活発な討議が可能となった。Ｍ１、Ｍ２の必修科目なので、毎回30名程の大学院生が参加した。そこでは電話受付やインテーク面接の情報に基づいてケースの概要が報告され、ケース担当者の人選、初期の見立てと面接方針等について検討を行っている。インテーク・カンファレンスは、新規ケースについて相談員が臨床心理士としてどのような臨床的判断を加えるのか、また初期の見立てや方針がどのようになされるのかについて、院生相談員が身近に学ぶ機会を提供できるように意図しており、大学院生の教育の一環として貴重な時間となっている。

⑸　研修相談員制度

本学臨床心理学コース修了者で臨床心理士の資格取得を目指す者、ないしはそれと同等以上の学力・経験をもつ学外者で、臨床研修を希望する者に対して、研修相談員の制度を設けている。2012年度は５名の研修相談員が在籍し、インテーク面接、心理査定、心理面接、プレイセラピー、研究などの業務に関わっている。心理面接、心理査定に関しては本学心理学科専任教員もしくは非常勤相談員（臨床心理士）からスーパーヴィジョンを受けており、また研究に関しては心理学科専任教員から指導を受けている。

２）相談活動について

⑴　開 室 時 間

開室時間は、2008年度までは木曜日を除く月曜日から金曜日の午前10時から午後５時までであったが、ケース数の増加を望む声が大学院生からあがり2009年４月から木曜日も開室することとなった。さらに、来談者の希望時間帯が夕方に多いことから、2011年４月から相談時間を１時間繰り下げ、午前11時から午後６時までとした。よって、開室時間は、月曜日か

ら金曜日の午前11時から午後６時までとなった。

⑵ 相 談 件 数

① 電話相談および問い合わせ件数

2011年９月から2012年８月までの一年間の電話による相談と問い合わせ件数を、表２に示した。連携機関・学校関係からの紹介、地域の病院やクリニックからの紹介、また新聞記事や本学ホームページ等により、心のクリニックの情報を知り、電話連絡がある場合が多かった。この一年間で61件の電話相談および問い合わせがあり、その内、インテークにつながったものは38件、他機関へ紹介したものが３件、電話のみが17件、インテークのキャンセルが２件、その他が１件となっている。

表２ 電話相談および問合せ件数

内 訳	インテーク	リファー	電話のみ	ｲﾝﾃｰｸｷｬﾝｾﾙ	その他	計
件 数	38	3	17	2	1	61

次に、月別の電話相談および問い合わせ件数を表３に示した。最も多かった月が2012年の２月と６月の９件、次いで2011年８月の８件であり、一方最も少なかった月が2012年の５月の１件であった。概ね、年間を通じて電話相談件数に偏りはなかったが、夏休み前後の７月、９月が多い傾向にある。

表３ 月別電話相談および問い合わせ件数

	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	計
インテーク	8	4	5	3	1	6		1	1	3	4	2	38
リファー											3		3
電話のみ			1	1	2	2	3	1		4	2	1	17
ｲﾝﾃｰｸｷｬﾝｾﾙ						1	1						2
その他								1					1
計	8	4	6	4	3	9	4	3	1	7	9	3	61

※インテークは、申込み日でカウントする

② 新規相談受理人数

新規相談受理人数を、表４に示した。この１年間の新規相談受理人数は、54名でった。ここ数年落ち込んでいた数値が昨年度はかなり回復した（前年：100名、前々年：48名）のだが、本年度は再び減少した。その内訳は０～６歳が10件、７～12歳が２件、13～18歳が６件、19～25歳が５件、26～40歳が21件、41～60歳が９件、61歳以上が１件となっている。

当クリニックでは、幼児を対象とする集団遊戯療法「にこにこ教室」を開催していることから、幼児とその保護者の年齢層の受理人数が多くなるのが例年であるが、本年は「に

こにこ教室」参加者が例年に比し減少し、０～６歳の児と26～40歳の母親の年齢層が減少した。また、41～60歳と以前はほとんど見られなかった働き盛りの層の増加は以前に比し増加傾向にあるが、この年齢層をターゲットとして、クリニック開室時間を１時間遅くしたにも関わらず、思った程の増加は見込めなかった（昨年度の25名より減少）。開室時間の問題と考えるよりも、交通アクセスの問題が大きいのではないかと考えている。

表４　新規相談受理人数

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人　数	10	2	6	5	21	9	1	54
%	18.5	3.7	11.1	9.3	38.9	16.7	1.9	100

※同席者があったケースを含む

次に月別の年齢層別新規相談受理人数を表５に示した。受理人数の最も多い月は2011年の10月の12件、次いで2012年の２月の10件であり、最も少ない月は2011年の８月と2012年の３月の０件であった。例年比較的受理面接が多いのは５月と10月であり、これは５月と10月にスタートする「にこにこ教室」の参加人数（児・母親）が加算されるからである。本年は「にこにこ教室」が秋学期のみ開講したので10月のみ新規相談人数の増加をみた。また受理面接が、夏期休暇中や年度末および年始に少ないのは例年通りである。

表５　月別年齢層別新規相談受理人数

	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	計
０～６	3	3				2					2		10
7～12		1		1									2
13～18		1		1	1	1			1		1		6
19～25		1	1			1		1			1		5
26～40	4	3	1	3		4		1		2	1		19
41～60	1	3		2		2					3		11
61～			1										1
計	8	12	3	7	1	10	0	2	1	2	8	0	54

※同席者があったケースを含む

③　インテーク面接以後、および、継続面接以後の経過

インテーク面接後の経過の件数を表６－１に、その人数を表６－２に示した。また、継続面接後の経過の件数を表７－１に、その人数を表７－２に示した。件数の上では、インテーク面接以降、継続の契約となったケースは32件であり、インテーク面接のみが５件、リファーが０件であった。「インテークのみ」には、来談希望者の希望する通所曜日・時間及び料金の面で都合が合わず治療契約に至らなかったケースが含まれている。昨年度のインテーク件数は多かった（44件）が、インテークのみやリファーの件数も多く（10件）、継続件数は本年度とあまり変わりがない。昨年度および本年度の際立った特徴は、例年受理面接後の終結件数および終結人数は数件（数人）であるところが、終結件数が13件（前

年33件）で終結人数が20件（前年54件）であったことである。例年ならケースに占める割合の10％以下であるところが30%以上（前年は40％以上）になっている。つまり長期継続ケースが減少している。内訳として、中断か終結か詳細な検討を加える必要があるが、成人層の増加に伴い、精神科通院中などの治療困難なケースが増えている印象がある。

表６－１　受理面接以後の経過（件数）

内　訳	インテークのみ	継　　続	リファー	計
件　数	5	32	0	37
%	13.5	86.5	0	100

表６－２　受理面接以後の経過（人数）

内　訳	インテークのみ	継　　続	リファー	計
人　数	5	49	0	54
%	9.3	90.7	0	100

表７－１　継続面接以後の経過（件数）

内　訳	継　　続	終　　結	リファー	計
件　数	20	13	2	35
%	57.1	37.1	5.7	100

表７－２　継続面接以後の経過（人数）

内　訳	継　　続	終　　結	リファー	計
人　数	29	20	2	51
%	56.9	39.2	3.9	100

※インテークを実施しなかったケースを含む

④　来談者実人数と年齢層

この一年間の来談者実人数とその年齢層を表８に示した。来談者実人数の総計は90名（前年131名）であったが、2011年９月以前に受理をして継続中のケースを含んでいるため、来談者実人数は受理面接の件数より多くなっている。内訳では26～40歳が24名、41～60歳が26名と成人層の来談者が他の年齢層に比し多かった。

26～40歳の年齢層と０～６歳（11名）が多くなるのが例年であるが、先にも挙げたように、本年は「にこにこ教室」の来談者が回復傾向にあるとはいえ、未だ充分ではなく、この年齢層の突出がなかったのが要因と考えられる。また幼稚園から大学院までの園児・児童・生徒・学生を擁するのが本学の特徴であるのだが、中高からの紹介の少なさ（多少はある）と合わせて、大学生、大学院生は学生相談室での対応となることも、前・中思春期層（特に大学生・大学院生の年齢層）の占める割合が少ないことと関与していると考えられる。

また、総来談件数と総来談者数の検討を行っていないが、一人当たりの来談回数が以前より減少している可能性が考えられる。詳細な検討とともに、来談間隔の調整を行う必要があるのかもしれない。

表８　来談者実人数と年齢層

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人　数	11	11	10	6	24	26	2	90
%	12.2	12.2	11.1	6.7	26.7	28.9	2.2	100

⑤　来談者実人数と居住地域

来談者実人数の居住地域を表９に示した。来談者の居住地域では、本学の所在地である茨木市居住の来談者がもっとも多く46名と全体の51.1％を占めており、次いで近隣の北摂地域の高槻市（16名）、吹田市（７名）、豊中市（６名）が多かった。この傾向は、ここ数年持続しており地域に根差した相談室として機能しているが、反面遠方からわざわざ来談する場合はまれであることが窺われる。

表９　来談者実人数と居住地域

居住地	大阪府										兵庫県	京都府	奈良県	合計
	茨木市	高槻市	吹田市	大阪市	豊中市	箕面市	羽曳野市	三島郡	枚方市	東大阪市	尼崎市	京都市	生駒市	
人数	46	16	7	4	6	3	2	1	1	1	1	1	1	90
%	51.1	17.8	7.8	4.4	6.7	3.3	2.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	100

⑥　相談内容別相談件数

相談内容別相談件数を、表10に示した。特筆すべきは、今まであまり目立たなかった「精神的疾患」が12件で二番目に多かったことである。それだけ成人のケースで精神的に大きな問題を抱えている難治ケースが増加しているのであろう。

相談内容で最も多かったのは「子どもの問題」に関する親からの相談であり38件であった。ついで「行動上の不適応問題（幼児・児童・生徒）」の10件、「言葉の発達の遅れやコミュニケーションの問題」８件と幼児・児童・生徒についての保護者からの相談が上位を占めている。これらは、連携機関から紹介を受けたケースが大半を占め、例年通りの傾向を示している。

表10　相談内容別相談件数（複数記入）

来談者主訴の内容	人数
言葉の発達の遅れやコミュニケーションの問題（幼児・児童） 自閉症スペクトラム（疑いも含む）	8 5
不登校・不登園 学業上の問題 行動上の不適応問題（幼児・児童・生徒）	7 1 10
子どもの問題（親からの相談）	38
対人関係 自分自身の実存に関する問題	5 5

来談者主訴の内容	人数
精神的疾患 身体的問題・心身症	12 2
スーパービジョン	2

⑦　月別来談者延べ人数とその面接の種類

各月別の面接種別ごとの延べ来談人数を表11に示した。この１年間の延べ来談人数は791名であり、昨年度より大幅な減となった（前年1060名、前々年843名）。その内訳は、2011年11月が102名で最も多く、同年12月の98名と続いている。この傾向は、例年通りである。延べ来談者数が最も少なかったのは、2012年の８月の０名である。これは改修工事に伴うクリニック閉室の為であり、この期間の来談者がいなかったのが延べ人数の減少に影響したのは明白である。

例年来談者が少ない月は、年度末や夏季休暇の休室期間を含むことが多いのであるが、本年度は春以降に来談者が激減しているのが見て取れる。これは、中断・終結したケースが多かったことによる。特に2011年４月に継続面接者数が半減している。これはクリニックの非常勤相談員が任期満了にて３月に多量に退職したのを機に、来談が終結となっ事情によると考えられる。

面接種類別では、個人遊戯療法が子ども202名とその親202名と相談者の最も多くを占めている。次いで集団遊戯療法の子ども52名（前年：112名、前々年：26名）、親53名（前年：116名、前々年：26名）となっている。子どもの問題に関して並行面接で進められるケースが全体の多くを占めているのも例年と変わりないが、集団遊戯療法（にこにこ教室）の参加者が前年は春と秋に開催することが出来たが、本年は紹介元の療育施設が移転のため春に開催出来なかったのが減少の最大要因である。

表11　月別面接種別相談人数（延べ人数）

		2011 年 度							2012 年 度					計
面接種別		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
受理面接		8	12	3	7	1	1		2	1	2	8		54
心理検査					2	2		1	1			4		10
集団遊戯療法	(子)		7	15	13	5	12							52
	(親)		7	15	13	5	13							53
個人遊戯療法	(子)	16	19	27	26	19	23	18	14	14	14	12		202
	(親)	19	26	27	23	2	2	15	14	14	13	11		202
並行カウンセリング	(子)	3		4	3	5	3	4		1	1	2		26
	(親)	3		1	1	2	1	2		1	1	2		14
カウンセリング		1	12	1	1	12	12	13	18	28	24	26		175
スーパーヴィジョン										1	1	1		3
コンサルテーション														0
合計		59	83	102	98	71	94	53	49	60	56	66	0	791

３）高度専門職（臨床心理士）養成について

心のクリニックの教育・訓練機関としての役割

本学大学院心理学研究科心理学専攻臨床心理学コースは、2006年４月に日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成第１種指定大学院となって7年目を迎えた。臨床心理士のアイデンティティは臨床心理学における心理面接、心理査定、地域援助、事例研究や実証的研究を実践し、またスーパービジョンを受けることによる専門性の向上にあるとされ、この様な専門性のアイデンティティを確立できるように専門家を育成することを目的としている。したがって学内外あわせて多数の実習施設において実践的訓練の機会を設けている。

心のクリニックは地域に開かれた心理相談施設であるとともに、上記の如く臨床心理士養成機関でもある。したがって、来談者に対しては、電話による問い合わせやインテークの段階でその旨を説明し、臨床心理士有資格者の指導のもとに大学院生がケース担当するということについて了解してもらっている次第である。そのために大学院の授業においては、心理臨床の実践ができるように厳しい訓練がなされている。

たとえば、茨木市障害福祉センター内の早期療育相談室「すくすく教室」との連携による「にこにこ教室」においては大学院生が集団遊戯療法のセラピストを担当している。また、これ以外の個別の来談者についてはインテーク面接後、各ケースについて担当者の検討がなされ適切な処遇がなされるように配慮を行っている。

以下に大学院生の学内外での実習活動について記す。

「臨床心理基礎実習・臨床心理実習および心理療法実習」の学内実習について

① 大学院１年次は、当クリニックにおいて臨床心理基礎実習の授業として、次のような実習を行っている。

・プレイルームや相談室の整備

・インテーク・カンファレンス

心のクリニックのインテーク・カンファレンスに参加し、ケースの概要からの見立て、処遇の仕方などについて学んでいる。

・ケース・カンファレンス

大学院２年次生に対して行っているケース・カンファレンスに参加することを通して、ケース・プレゼンテーションの仕方や心理療法の過程、ケースに対する理解、心理臨床的援助の方法などを総合的に学んでいる。

② 大学院２年次には、当クリニックにおいて臨床心理実習の授業として、以下のような実習を行っている。

・プレイルームや相談室の整備

・「にこにこ教室（前期10回、後期10回）」および保護者グループへの参加

・不登校や行動面での問題を抱えた幼児・児童・生徒を対象として個別の心理面接や遊療法および心理査定の実践。これらについては全て各セッション終了後に臨床心理士り「今・ここ」ベースのスーパービジョンを受け、ケースへの関わり方や理解の仕方学習している。

・インテーク・カンファレンス

心のクリニックのインテーク・カンファレンスに参加し、ケースの概要からの見立て、処遇方針の立て方などについて学んでいる。

・ケース・カンファレンス

実際に院生自身が担当しているケースの経過について90分の時間をかけて、発表し、相談員（本学教員）や非常勤相談員からの指導や提案を受けることによって、クライエントの理解や関わり方について検討を行っている。これにより自身のセラピストとして関わり方を丁寧に見直し、より適切に今後のケースに関わるための展望を得ることを目的としている。

・スーパービジョン

さらに各大学院生は担当したケースについて個別に実習担当の相談員（学外教員：2008年度末までは学内教員）より概ね２週間に１回、スーパービジョンを受けることになっている。これにより、さらに詳細に自身の心理臨床的援助の仕方や、ケースの中でのセラピストとしての自分の在り方に気づき、より専門性を確実なものとするようにしている。

「臨床心理実習および心理療法実習」学外施設における実習活動について

臨床心理実習担当教員（学内）：倉戸 由紀子・中村 このゆ・橋本　秀美・馬場　天信・溝部　宏二

心理療法実習担当教員（学外）：東　斉彰（住友病院）・大島　剛（神戸親和大学）・加藤敬（こども心身医療研究所）・川原　稔久（大阪府立大学）・田中　誉樹（ノートルダム女子大）・鶴田　英也（梅花女子大学）・中西　龍一（京都橘大学）・西　友子（大阪樟蔭女子大学）・畠瀬　稔（関西人間関係センター）・日比野 英子（京都橘大学）・本宮　幸孝（関西福祉科学大学）・松田 真理子（京都文教大学）・水本　正志（京都工場保健会）・森田　善治（龍谷大学）・山中　祥匡（山中臨床心理研究所）

学外実習担当臨床心理士：岩本　真由・片桐　陽子・黒田　晴美・手塚 真樹子・永井　享・仲倉　高広・名倉　祥文・西　友子・増子高通・松本　千穂・鞠谷　祐子・三好　幸弘・森安 真由美・柳田　麗奈

１．長期実習（大学院生の希望人数と受け入れ先の都合で毎年振り分け人数が異なる）

⑴　施　設　名：西宮市教育委員会学校教育特別支援教育グループ

臨床心理士：森安真由美

所　在　地：西宮市神祇官町２番６号

期　　間：2012年４月～2013年３月、毎週水曜日８：40～16：00（１名）

毎週金曜日８：15～16：00（１名）

（１日7.5時間×45週、約337.5時間）ただし曜日時間は派遣先により異なる

実 習 者 数：２名

実 習 内 容：西宮市教育委員会に所属し、ニーズのある各小中学校へ派遣される。担当する生徒と様々な関わりを通じて、教育現場での支援について学ぶ。知能検査等の心理テストを実施し、個別の指導計画書を作成し、教員の指導を受ける。また、心理的な関わりに関しては、担当臨床心理士のスーパービジョンを受ける。

⑵ 施　設　名：豊中市子ども未来部子育て支援課子育て支援センター「ほっぺ」
臨床心理士：黒田　晴美
所　在　地：大阪府豊中市中桜塚３－１－１
期　　間：2012年４月～2013年３月、毎週火曜日９：15～17：15（１名）
毎週木曜日９：15～17：15（１名）
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：母子同室の集団遊戯療法（１才児グループ、２才児グループ：軽い言語発達の遅れ）と母親グループ、その後のケース・カンファレンスに参加。個別の遊戯療法もしくは保育（被虐待の疑いのある未就園児、発達に遅れのある幼児、情緒面の問題を持つ児童）を担当し、毎回事後に外部のスーパービジョンを受ける。その他に、虐待に関する研修会への参加。保健師、保育士との協働を体験する。発達検査の実施とその後のスーパービジョンとケース・カンファレンスに参加。１歳半健診・３歳児健診の見学や外部の研修会に同行する。

⑶ 施　設　名：医療法人北斗会さわ病院（単科精神病院）
臨床心理士：増子　高通
所　在　地：大阪府豊中市城山町１－９－１
期　　間：2012年４月～2012年９月、毎週火曜日８：45～17：00（１名）
2012年10月～2013年３月、毎週火曜日８：45～17：00（１名）
（１日8.5時間×24週、204時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：通院・入院カルテを読み込み、ケース・カンファレンスに参加することで、精神障害者について理解を深め、多職種の協働とチーム医療の実際を知る。病棟での統合失調症患者との面接、デイ・ケアにおける集団療法（統合失調症圏、気分障害等の通所患者）のなかで、スタッフの一員として精神科リハビリテーションの一環に携わる。心理検査（統合失調症：WAIS-R・ロールシャッハテスト、心身症女性：バウムテスト・ロールシャッハテスト）を実施し、その後スーパービジョン（実施の仕方、検査の分析方法と報告書作成の仕方について）を受ける。

⑷ 施　設　名：財団法人復光会垂水病院（単科精神病院）
臨床心理士：岩本　真由

所　在　地：神戸市西区押部谷西盛566
期　　間：2012年４月～2012年９月、毎週金曜日10：00～17：00（１名）
2012年10月～2013年３月、毎週金曜日９：00～17：00（１名）
（１日８時間×22週、約176時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：アルコール・薬物依存症についての研修を受け、院内治療・リハビリテーションプログラム（病棟グループ）酒害教室、AAメッセージ（アルコール・薬物依存症の院内治療プログラム）アルコール・薬物依存症の入院および通院患者とその後のケース・カンファレンスに参加する。デイケア通所患者に対する個別面接（統合失調症圏・アルコール依存症）をし、毎回事後にスーパービジョンを受ける。個別で心理検査（神経症圏：ロールシャッハテスト、アルコール依存症：WAIS-R）を実施し、その後の指導（実施の方法、検査の分析方法と報告書作成の仕方について）を受ける。

⑸ 施　設　名：医療法人栄仁会宇治おうばく病院（単科精神病院）
臨床心理士：片桐　陽子、名倉　祥文、松本　千穂
所　在　地：京都府宇治市五ケ庄三番割32－１
期　　間：2012年４月～2013年３月　前期：毎週金曜日９：00～17：00
後期：毎週木曜日９：00～17：00
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：１名
実 習 内 容：前期は、心理室のスタッフルームにて心理検査（主に認知機能検査やバウムテストなど投影法）の実施および指導を受けることを中心に実習を行う。並行して、精神科病棟などで患者に接する時間を持つ。その他、心理教育や回想法プログラムへの参加が許可されている。心理検査や患者との関わり方について１名の臨床心理士にスーパービジョンを受ける。後期は、復職トレーニング専門デイケアにて、２名の臨床心理士の業務補助を行う。SST、アロマセラピー、マインドフルネス、ヨガ、アサーショントレーニング、コラージュ療法など、ストレスマネージメントに有用な多彩なセラピーを実施する。利用者との交流の一環として、利用者との昼食をともにすることが義務付けられている。

⑹ 施　設　名：国立病院機構大阪医療センター（総合病院精神科）
臨床心理士：仲倉　高広
所　在　地：大阪市中央区法円坂２－１－14
期　　間：2012年４月～2013年３月、毎週木曜日９：00～17：00
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：毎週あるカンファレンスへ参加する。前期はHIV患者さんへのインタビュー内容について、後期は担当ケースについて臨床心理士からスーパビ

ジョンを受ける。他校からの実習生と合同で、K式、認知機能検査などの勉強会がルーチンとして行われる。その他不定期ではあるが、精神科の予診や診察の陪席、認知機能検査や発達検査の実施と所見作成、HIVや血友病の講義、がん緩和ケアサポートチーム回診への参加、AIDSカウンセリング研修会や看護師研修会への参加などが可能となっている

⑺ 施　設　名：楓こころのホスピタル
臨床心理士：西　友子
所　在　地：大阪府泉佐野市中庄1025
期　　間：2012年４月～2013年３月、毎週金曜日９：00～17：00
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：１名
実 習 内 容：デイケア（９：00～15：00）に参加し、その間に検査（WAIS-R、ロールシャッハテスト、バウムテスト、P-Fスタディなど）が依頼されれば優先的に実施する。デイケア終了後に臨床心理士よりスーパービジョンを受ける。また、他校からの実習生と合同で、描画テストをデイケアにて実施する。

⑻ 施　設　名：摂津市家庭児童相談室（月・水・金：千里丘、火・木：鳥飼で開室）
臨床心理士：手塚真樹子
所　在　地：大阪府摂津市千里丘東１－16－２
期　　間：2012年４月～2013年３月、毎週火曜日９：30～18：30
毎週金曜日９：30～18：30
（１日９時間×40週、約360時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：母子同室の集団遊戯療法（くまさん教室：良好な母子関係を促進するグループ、対象は幼児）または母子分離して行う集団遊戯療法（自閉傾向のある幼児のグループ）、その後ケース・カンファレンスに参加。また、個別の遊戯療法、カウンセリング、新版K式発達検査の実施を行う。個別のケースについては、毎回事後のスーパービジョンと適宜開催のケース・カンファレンスにて指導を受けることとなっている。

２．心理査定実習

⑴ 実習施設名：桃花塾（知的障害児・者施設、知的障害者更生施設）
臨床心理士：三好　幸弘
所　在　地：大阪府富田林市大字喜志206
期　　間：2012年７月26日　13：30～17：00
実 習 者 数：13名（大学院１年）
実 習 内 容：事前研修として11月～12月にかけて、臨床心理査定演習で実習した新版K式発達検査法を実践現場で用いるために、より詳細な実施方法の習得を目

指し（第３葉～第６葉までのロールプレイも含む）、実際に精神発達遅滞児・者に発達検査を行う際の心得と観察のポイントなどの指導を行う。実習当日は、知的障害児・者およびその更生施設についての現況の研修を受けた後、13～50才の入所者を対象に新版K式発達検査を実習者１人１ケース実施し、結果の処理と判定終了後にスーパービジョンを受ける。その後、学内において検査報告書の作成、さらにレポート課題を提出する。事後研修：実習院生それぞれが検査を行った知的障害児・者についての理解をさらに深められるようカンファレンスを持つ。

３．短期病院実習

⑴ 医療法人北斗会さわ病院（単科精神病院）

臨床心理士：増子　高通

所　在　地：大阪府豊中市城山町１－９－１

実 習 期 間：2012年５月14日　13：30～17：00

実 習 者 数：14名（大学院２年）

実 習 内 容：急性期精神医療と精神障害者リハビリテーションシステムを備える病院の概要、地域における精神病院のあり方についての研修の後、病院内（病棟・デイケア）や通所授産施設、グループホーム、福祉工場などで実習（統合失調症圏や気分障害の患者と関わる体験）。終了後、全施設に関しての質疑応答と、療機関における臨床心理士の役割についての研修を受け、実習レポートを提出する。

⑵ 財団法人復光会垂水病院（単科精神病院）

臨床心理士：岩本　真由

所　在　地：兵庫県神戸市西区押部谷町西盛566番地

実 習 期 間：2012年４月23日　15：00～17：00

実 習 者 数：14名（大学院２年）

実 習 内 容：主に中・高年のアルコール・薬物依存症と統合失調症（慢性期）治療が中心の単科精神病院（病棟、外来、デイケア）の概要、各治療プログラムについての説明を受けた後に、病棟内にて実習（病棟内治療プログラムにて、アルコール・薬物依存症や統合失調症患者と関わる体験）を行う。終了後、全施設に関しての質疑応答と、医療機関における臨床心理士の役割についての研修を受け、実習レポートを提出する。

４．短期情緒障害児治療施設実習

⑴ 施　設　名：大阪府衛生会希望の森（情緒障害児短期治療施設）

臨床心理士：永井　亨

所　在　地：大阪府高槻市大字奈佐原955

実 習 期 間：2012年６月25日　10：30～12：30

実 習 者 数：13名（大学院１年）

実 習 内 容：大学院１年の春学期に、全員での施設見学および、カルテを介して被虐待児を含めた情緒障害児についての説明を受ける。その後、希望者は大学院１年の秋学期に３泊４日の予定（前の学年は2012年２月24日～25日に実施）で、施設内に宿泊することを通じて、情緒障害児の生活体験と生活指導について研修する。

５．短期療育相談施設実習

⑴　茨木市立障害福祉センターハートフル「すくすく教室」

臨床心理士：柳田　麗奈

所　在　地：大阪府茨木市春日３－13－５

期　　間：2012年５月14日　15：30～17：00

実 習 者 数：13名（大学院１年）

実 習 内 容：全員での事前研修として、施設の概要と療育についての説明を受ける。その後、６月～９月の期間に１名ずつが１日実習として９：00～17：00の間、療育グループである「すくすく教室」に、臨床心理士の指導を受けながらスタッフの一員として参加する。

2．心理学専攻臨床心理学コース
2012年度カリキュラム

履修区分		授業科目	単位	担当者	配当年次	学期	備考
必修		臨床心理学特論1	2	中村このゆ 教授	1年次以上	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理学特論2	2	橋本 秀美 教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理面接特論1	2	倉戸由紀子 教授 橋本 秀美 教授	同	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理面接特論2	2	永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理アセスメント演習1	2	辻 潔 准教授 馬場 天信 准教授	同	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理アセスメント演習2	2	中村このゆ 教授 中鹿 彰 准教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理基礎実習	2	中鹿 彰 准教授 辻 潔 准教授 永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授	1年次	通年	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理実習 A B C	2	倉戸由紀子 教授 中村このゆ 教授 橋本 秀美 教授 馬場 天信 准教授 溝部 宏二 准教授	2年次	通年	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ 臨床心理基礎実習を修得した者のみ
選択必修	A	臨床心理学研究法特論1	2	倉戸由紀子 教授 中村このゆ 教授 橋本 秀美 教授 中鹿 彰 准教授 辻 潔 准教授 永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授 馬場 天信 准教授	1年次以上	前期	
		臨床心理学研究法特論2	2	倉戸由紀子 教授 中村このゆ 教授 橋本 秀美 教授 中鹿 彰 准教授 辻 潔 准教授 永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授 馬場 天信 准教授	同	後期	
		心理統計法特論	2	東 正訓 教授	同	前期	（隔年開講）
	B	人格心理学特論	2	井上 知子 教授	同	前期	（隔年開講）
		認知心理学特論	2	石王 敦子 教授	同	前期	
		教育心理学特論	2	三川 俊樹 教授	同	不開講	
	C	社会心理学特論	2	東 正訓 教授	同	不開講	（隔年開講）
		犯罪心理学特論	2	（不開講）	同	不開講	
		臨床心理関連行政論	2	田中耕二郎 教授	同	後期	
	D	精神医学特論	2	溝部 宏二 准教授	同	後期	
		神経生理学特論	2	田中 秀明 准教授	同	後期	
		障害者（児）心理学特論	2	中鹿 彰 准教授	同	後期	（隔年開講）

履修区分		授業科目	単位	担当者	配当年次	学期	備考
選択必修	E	投映法特論	2	八尋華那雄 講師	同	前期	集中
		臨床心理地域援助特論	2	森田 喜治 講師	同	前期	
		心理療法特論１	2	久野 能弘 講師	同	不開講	集中（隔年開講）臨床心理学コースのみ
		心理療法特論２	2	佐野 直哉 講師	同	前期	集中（隔年開講）臨床心理学コースのみ
		学校臨床心理学特論	2	森田 喜治 教授	同	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
	心理療法実習１		1	加藤 敬 講師	１年次	後期	臨床心理学コース専攻生で、臨床心理基礎実習を修得した者のみ
	心理療法実習２		1	加藤 敬 講師	２年次	前期	学外スーパービジョン
	臨床心理学研究法演習Ⅰ１		1	中鹿 彰 准教授 辻 潔 准教授	１年次	前期	
	臨床心理学研究法演習Ⅰ２		1	永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授	同	後期	
	臨床心理学研究法演習Ⅱ１		1	倉戸由紀子 教授 橋本 秀美 教授	２年次	前期	
	臨床心理学研究法演習Ⅱ２		1	中村このゆ 教授 馬場 天信 准教授	同	後期	
	臨床心理学コース演習１	A B C D E F G H	1	倉戸由紀子 教授 中村このゆ 教授 橋本 秀美 教授 中鹿 彰 准教授 辻 潔 准教授 永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授 馬場 天信 准教授	同	前期	（修士論文指導） 臨床心理学コース専攻生のみ
	臨床心理学コース演習２	A B C D E F G H	1	倉戸由紀子 教授 中村このゆ 教授 橋本 秀美 教授 中鹿 彰 准教授 辻 潔 准教授 永野 浩二 准教授 駿地眞由美 准教授 馬場 天信 准教授	同	後期	（修士論文指導） 臨床心理学コース専攻生のみ
上記のＡ～Ｅの科目群から、それぞれ２単位以上、計10単位以上を修得し、選択必修の区分から計14単位以上を修得すること。							
選択		進路指導特論	2	三川 俊樹 教授	１年次以上	後期	（隔年開講）
		言語発達支援論	2	高橋 登 講師	１年次以上	不開講	（隔年開講）
		学校カウンセリング特論	2	三川 俊樹 教授	１年次以上	前期	（隔年開講）
		育児支援特論	2	井上 知子 教授	１年次以上	不開講	（隔年開講）
		保育支援特論	2	石王 敦子 教授	１年次以上	後期	（隔年開講）
		生涯教育心理学演習	2	河﨑 美保 講師	１年次以上	後期	
		生涯発達心理学演習	2	河合 優年 講師	１年次以上	前期	
		心理アセスメント演習1	2	井上 知子 教授	１年次以上	前期	
		心理アセスメント演習2	2	井上 知子 教授	１年次以上	後期	
		上級社会心理学演習	2	東 正訓 教授	１年次以上	前期	（隔年開講）
上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、合計30単位以上を修得すること。							

４．追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要編集規程

（趣旨）

第１条　この規程は、追手門学院大学地域支援心理研究センター（以下「センター」という。）規程第15条に基づき、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要（以下「紀要」という。）の編集の基本的事項等について定める。

（目的）

第２条　紀要は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」（以下「心のクリニック」という。）の研究成果の発表を目的として、これを刊行する。

（編集委員会）

第３条　紀要の企画、原稿の募集及び編集は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が行い、発行は心のクリニックが行う。

２　委員会に編集委員長を置き、心のクリニック室長がこれにあたる。

３　委員会に編集委員を置き、心のクリニック相談員の中から選出された者２名がこれにあたる。

（執筆者の資格）

第４条　執筆の資格を有する者は次の各号に掲げる者とし、執筆は投稿とする。

⑴　心のクリニックの構成員（室長、相談員、非常勤相談員、事務職員、研修相談員。）に限る。ただし、依頼原稿、資料及び特集についてはこの限りではない。

⑵　院生相談員が投稿する場合は、指導教員を通して論文を委員会に投稿し、審査の結果、論文の採否を決定する。

⑶　追手門学院大学大学院心理学研究科心理学専攻臨床心理学コースの修了生が投稿する場合は、査読をするという条件のもと、論文を委員会に投稿し、審査の結果、論文の採否を決定する。

（原稿の要件）

第５条　紀要に執筆する原稿の要件は、次の各号のとおりとする。

⑴　他紙に未発表の原著論文等であること。（口頭発表、研究会等での発表を除く。）

⑵　完成原稿であること。

（原稿の採択）

第６条　執筆原稿の掲載については、委員会において決定する。

（紀要の発行）

第７条　紀要は、年１回の発行とし、毎年の原稿募集締切日は９月末日、執筆期限は10月末日、

発行日は12月末日とする。

（原稿の形式）
第８条　紀要に執筆する原稿の形式は、委員会が別に定める「地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要執筆要項」によるものとする。

（校正）
第９条　校正は著者校正とし、校正期限を遵守し、校正時に大幅な訂正を行わないこととする。
２　執筆者が前項の規定に反した場合、第６条の規定を準用する。

（抜刷）
第10条　抜刷は、論文ごとに50部を贈呈し、増刷分の費用は申し込み者の負担とする。

（著作権）
第11条　紀要に掲載された論文の著作権は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」に帰属するものとする。

（ホームページへの掲載）
第12条　紀要に掲載された論文の中で個人情報保護の観点から考えて適切と思われる論文は、センターのホームページへ掲載するものとする。

（所管）
第13条　この規程の紀要の発行に関する事務は、センター事務室において行う。

（規程の改廃）
第14条　この規程の改廃は、委員会の議を経て、センター運営委員会で行う。

附　則
この規程は、2006年４月１日から施行する。

附　則
この規程は、2010年４月１日から施行する。

５．追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要執筆要項

追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要編集規程第８条に則り、執筆原稿の形式を以下のように定める。

１．原稿の構成

１）掲載形態（①②③のいずれか）

① 論文

② 研究ノート

③ 書評・内外学会動向

２）タイトル

日本語と英語

３）執筆者名、所属名、連携機関

４）本文・注・文献（仕上がりはＡ４判）

２．原稿の提出方法

１）「MS-Word」のファイル（サイズはＡ４判）をフロッピィディスクか電子メールに添付して送る。原則としてフロッピィディスクは返却しない。

２）ハードコピーも２部提出。（サイズはＡ４判）

３）原稿は完全原稿とする。（※提出された原稿がそのまま印刷される。）

３．表　　記

１）字　　体

【本　文】日本語：MS明朝体 11ポイント、40文字×40行の書式設定

外国語：Times New Roman 11ポイント

【見出し】原則としてMS明朝体（強調文字）14ポイント

副　題：MS明朝体（強調文字）12ポイント

【注・参考文献】日本語：MS明朝体 11ポイント

外国語：Times New Roman 11ポイント

２）文中の表記

句読点は、原則として「、」「。」を使用し、新字、新カナを使用のこと。

また、ヨコ２段組みのため、句読点、カッコ、コロンなどはヨコ組の表記となる。

３）用字用語、表記の統一

原則として、用字用語の統一は行わないので、各自で原稿中の統一をはかること。詳細については、日本心理学会「執筆・投稿の手引（改訂版）」に基づき執筆すること。

４）日本人以外の人名表記

人名は、原語表記とする。

5）西暦・和暦、数詞

半角アラビア数字を使用すること。

6）引用文献の表記方法

和書、洋書を分けずに、著者のアルファベット順に記載すること。

7）論文中の写真・図形・表について

採用時には単独の形式で用意すること。

① 写　真：

デジタルカメラで撮影したものであれば、解像度350DPI以上のオリジナル写真。データを標準的な画像フォーマット（JPEG）のファイルとして、またアナログ写真で撮影されたものであれば、紙焼きの形で用意のこと。

② 線画（線で構成されたグラフィックス）：

作画したオリジナルのCGソフトからEPS（Encapsulated Post Script）形式に変換したファイルを用意すること。

③ 表組み：

スキャン画像ではなく、作表した際に使用したソフトのファイル形式で用意すること。

追手門学院大学 地域支援心理研究センター附属

心のクリニック紀要　第9号

発行年月　2012年12月

発 行 者　追手門学院大学地域支援心理研究センター附属
心のクリニック
〒567-8502　大阪府茨木市西安威２丁目１番15号
TEL　072（643）9439　　FAX　072（643）5790
E-mail：clinic-prcs@office.otemon.ac.jp

制　　作　川西軽印刷株式会社

©Otemon Gakuin University　　無断での転載・転用を禁ず